

戦後70年

戦没者追悼式

永遠の平和誓う



平成27年度戦没者追悼式が、洞爺と虻田各地区で行われ、遺族ら関係者が戦没者を追悼するとともに、戦後70年を迎えて、平和の大切さを改めて祈願しました。

8月5日に行われた虻田地区の追悼式では、会場の虻田

式典では、全員の黙とうの後、真屋町長が「謹んで追悼と慰霊の誠を捧げます。世界の恒久平和を願い、その大切さを若い世代にも語り継いでいかなければなりません」と式辞を述べました。

引き続き、北海道知事、洞爺湖町議会議員、北海道連合遺族会、洞爺湖遺族会会長が、戦没者に追悼の言葉を述べ、全員が、きくの花を捧げて冥福を祈りました。

これに先立ち7月28日に洞爺地区でも忠魂碑前に約40人が参加して追悼式が開かれました。

真屋町長や来賓

洞爺地区戦没追悼式

真屋町長や来賓

の式辞や追悼の言葉が述べられた後、洞爺地区の遺族会を代表して鈴木孝さんが「戦没者各位の御霊の前に謹んで哀悼の意を捧げます。歳月を超えて聞こえる戦争体験者の声や戦争の歴史の教訓を学んでほしい」と追悼の言葉を述べました。



虻田地区戦没者追悼式

戦争体験の記憶を次の世代へ すいとん食べて戦争を語りつぐ集い

終戦を迎えた8月にあわせて、すいとんを食べながら、平和の尊さや大切さを考える「すいとん食べて戦争を語りつぐ集い」（洞爺湖非核平和のまちづくり実行委員会＜長崎良夫委員長＞主催）が、8月30日虻田ふれあいセンターで開催され、子どもから高齢者まで約50人が参加しました。

集いでは、新日本婦人の会洞爺湖支部の歌声コーラスによる「青い空は」の合唱でオープニング。

長崎良夫委員長が「8月といえば、8月15日のことを忘れることができない。戦後70年が経ち、改めて8月のこの日を忘れずに語り継いでいってほしい」と挨拶しました。

引き続きアニメ「ヒロシマに一番電車が走った」を鑑賞。その後すいとんを食べながら、樺太からの引揚げや満州での出兵など厳しく、壮絶な体験が語られ、平和への思いを強くしました。



すいとんを食べながら戦争体験を語り合う